

土木技術者実践論文集創刊の趣旨

土木工学が土木に関わる諸事業を通じて公益に資するものである以上、諸事業を支える構造や土質、水理や計画等の種々の「要素技術」の深化と発展が必要であることは論を待たない。しかしながら、諸事業の成功は、要素技術が個別的に適用されるだけで望めるものでは決してない。諸事業が成功し、それを通じて公益の増進が真に図られ得るのは、各種の要素技術を総合化・統合化する「土木技術者」個々人の具体的個別的なる「実践」があった時にのみに限られる。

そうした「土木技術者の実践」の中には、過去に様々な現場にて繰り返し適用されてきた標準的なものが含まれていることは想像に難くはない。しかし、各種の自然的社会的な諸制約が存在する困難な状況において、公益の増進を志す強い意志の下で紡がれた創意工夫に満ちた土木技術者の実践が様々な形で存在していることもまた間違いない。そのような実践においては、仮に適用される「要素技術」が標準的なものであっても、その組み合わせを含む「実践の全体像」そのものが「新規」なるものであり、その実践が他に模範となり得るという点において「有益」なるものである。そうした新規性、有用性を鑑みるなら、「土木技術者の実践」を高い完成度でもって論ずる論文が、新規性と有用性が求められる土木学会論文集に掲載するに足る十分な価値を持つことは何人も否定できないであろう。

「土木技術者実践論文集」は、まさにそうした新規性と有用性を備えた土木技術者の実践を掲載するものとして提案する土木学会の論文集である。それは、様々な現場において個々の土木技術者によって紡がれた良質の実践を論じた論文の掲載を通じて、国内外の現場における土木技術者の実践の質的向上を期し、ひいては公益増進を目指すものである。そしてさらにはそれらを通じて、土木工学の「真の総合工学」としてのさらなる発展に寄与することを願って提案するものである。

(以上、土木技術者実践論文集 趣意書、土木学会コンサルタント委員会、2009年5月より引用)

なお、土木学会論文集の改革が2008年度から進められており、分冊の再編がこの「土木技術者実践論文集」の創刊に勢いを付けた。土木学会論文集再編小委員会のご指導をいただき、2011年1月以降は「土木学会論文集 F5 (土木技術者実践)」として発刊される予定である。

2010年3月
土木学会コンサルタント委員会
論文集編集小委員会